
大山地域公共施設複合化事業
[リーディングプロジェクト]
基本計画

令和2年3月
富山市

目 次

1. はじめに.....	1
(1) 計画の背景と目的.....	1
(2) 計画の位置付け.....	2
2. 地域の現状と課題.....	3
(1) まちづくりの現状と課題.....	3
(2) 公共施設の現状と課題.....	4
3. 計画の基本コンセプト.....	9
(1) 整備の方向性.....	9
(2) コンセプト及び対象エリア.....	10
(3) 導入機能.....	11
4. 整備計画.....	13
(1) 計画条件.....	13
(2) 諸室整備計画.....	15
(3) 配置計画.....	19
(4) 平面計画.....	20
(5) 構造計画.....	20
(6) 設備計画.....	20
(7) 管理・運営計画.....	21
5. 事業計画.....	22
(1) 事業スキーム.....	22
(2) 事業スケジュール.....	26
(3) 概算事業費.....	26
6. 今後の検討に向けて.....	27
7. 参考（ワークショップ等の概要）.....	28

1. はじめに

(1) 計画の背景と目的

本市では、1970年代における人口の急増に伴い、学校や公営住宅、市民利用施設などの「公共建築物」や道路、橋りょう、上下水道などの「社会インフラ」（これらを総称して「公共施設等」）を整備してきましたが、これらの多くが整備後30年以上を経過しており、今後はその維持管理・修繕・更新に係る多額の経費が必要となることが見込まれています。

一方、今後の人口減少や少子・超高齢社会の進展などにより、大幅な税収等の増加が見込めない中、更新費用の確保は一層困難な状況になるものと予想されており、老朽化した施設の更新や維持管理の継続が大きな課題となっています。

このことから、本市では、長期的な視点をもって、公共施設等の統廃合や長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担の軽減や平準化を図るため、その基本方針となる「富山市公共施設等総合管理計画」を平成28年12月に、また、その具体戦略や個別施設計画である「富山市公共施設マネジメントアクションプラン」を平成30年3月に策定し、公共施設マネジメントの取り組みを推進しているところです。

とりわけ、合併前の旧町村の本庁舎であった行政サービスセンター及び中核型地区センターについては、地域のシンボルとして、長きにわたり地域住民に親しまれてきた一方で、合併後の組織体制の変更に伴い建物の空きスペースが増加していることや施設自体の老朽化が進んでいること、耐震化が行われていないことなどから、適正な規模の建物へと面積の縮減を図るとともに、市民の利便性を向上させるよう複合化を図ることとしています。

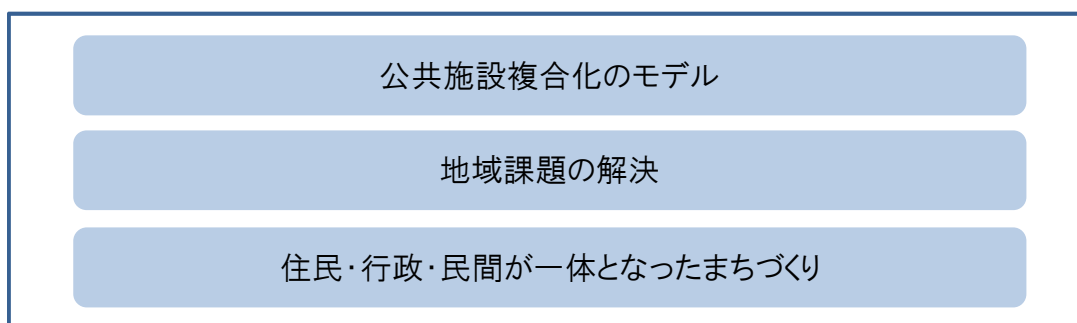
こうした中、大山地域においては、公共施設マネジメントにおけるリーディングプロジェクトとして、行政サービスセンターやその周辺にあるホールや公民館、図書館等の公共施設を含め、必要とする機能を改めて見直し、複合化による施設床面積の縮減や施設機能の向上を図るとともに、余剰地等へ民間商業施設等を整備することなどにより、公共施設の再編を核とした「地域活性化」を目指すこととしています。

そして、平成30年度には、地域の代表者や施設利用者等によるワークショップを計4回にわたり開催し、現状の把握や課題の整理のほか、整備コンセプトや導入機能などについて様々な議論を重ねながら、地域の皆様とともに、「大山地域公共施設複合化事業（リーディングプロジェクト）基本構想」を策定したところです。

本計画は、基本構想や関係課で構成する庁内プロジェクトチームにおけるその後の検討等を踏まえ、大山地域におけるリーディングプロジェクトの基本的な方針を示すとともに、必要となる施設の整備や管理・運営のあり方等を取りまとめるものです。

<リーディングプロジェクト>

本市において、公共施設マネジメントの観点から、今後の再編を進める上でモデルとなる事例を創出するための事業であり、行政サービスセンターやその周辺にある公共施設を含め、必要とする機能を改めて見直し、複合化の手法によって、施設の床面積の縮減や施設機能の向上を図るとともに、跡地等には地域活性化につながる民間の商業施設を整備するなど、公共施設の再編を核としたまちづくりを目指すものです。



(2) 計画の位置付け



2. 地域の現状と課題

(1) まちづくりの現状と課題

大山地域の総人口は今後も減少傾向が続き、令和42年（2060年）には約4,000人まで減少すると予測されています。年齢区分別にみると、年少人口、生産年齢人口、高齢者人口のいずれの区分においても大きく減少しますが、特に年少人口と生産年齢人口の減少率が高くなっており、当面は高齢化率の上昇が続くものと見込まれます。

人口の分布をみると、人口が多いエリアも一部みられますが、地域内に広く分布しています。

「富山市都市マスタープラン」においては、大山地域では、上滝地区の上滝駅周辺は地域におけるまちづくりの核となる地域生活拠点、また、福沢地区にある富山国際大学周辺は学術文化拠点、常願寺川沿いはスポーツ・レクリエーション拠点及び治水に関わる歴史景観拠点として位置付けられています。

また、富山市都市マスタープランに基づく居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の立地、公共機能の充実等に関する計画である「富山市立地適正化計画」では、大山地域の上滝駅と大川寺駅から半径500m内の用途地域が設定されている範囲が、「居住誘導区域（居住を誘導するエリア）」及び「都市機能誘導区域（都市機能を誘導するエリア）」として定められています。

しかし、今後の人口の推移では、地域生活拠点である上滝駅周辺ではなく大庄地区を中心に人口が増加すると予想されており、老朽化の進んでいる都市機能について更新を図り、地域生活拠点の拠点性を高めることが今後の課題であると考えられます。

また、商業施設や医療施設等の民間施設は、大庄駅周辺と上滝駅周辺に立地しており、人口の多い地域からは比較的アクセスしやすいですが、地域内にはスーパーやドラッグストアがないことから、地域生活拠点での日用品の物販機能の確保が課題となっています。

(2) 公共施設の現状と課題

1) 公共施設の現状

大山地域には、公共施設が 43 施設立地しており、その総延床面積は約 7 万㎡、人口 1 人当たりの延床面積は約 7 ㎡となっています。

また、稼働率が低い施設や利用人数が少ない施設が多く、費用対効果の面からも利用率の向上や維持管理費の削減が求められています。

図表 1 大山地域の公共施設の概要

No.	施設分類	施設名	延床面積 (㎡)	築年数 (年)	利用状況 (平成 28 年度)
1	集会施設	上滝地区コミュニティセンター (上滝公民館)	563.17	16	12.0% (稼働率)
2	集会施設	大庄地区コミュニティセンター (大庄公民館)	1,084.57	12	26.7% (稼働率)
3	集会施設	小見地区コミュニティセンター (小見公民館)	678.00	13	6.3% (稼働率)
4	集会施設	福沢地区コミュニティセンター (福沢公民館)	704.74	19	14.2% (稼働率)
5	集会施設	文珠寺公民館	423.05	37	6.1% (稼働率)
6	集会施設	牧公民館 (牧地区コミュニティセンター)	482.38	39	2.3% (稼働率)
7	集会施設	(旧) 上滝公民館岡田分館	154.71	32	-
8	集会施設	(旧) 瀬戸集落センター	125.87	25	-
9	集会施設	榎ヶ原集落センター	89.40	26	6.6% (稼働率)
10	集会施設	大山地域市民センター	1,593.69	53	8.8% (稼働率)
11	集会施設	大山農村環境改善センター	1,016.02	39	13.7% (稼働率)
12	文化施設	大山文化会館	2,658.48	38	3.3% (稼働率)
13	図書館	大山図書館	855.00	38	17,179 人 (利用人数)
14	博物館等	大山竪穴住居跡展示館	90.00	23	-
15	博物館等	大山歴史民俗資料館	806.72	35	1,452 人 (利用人数)
16	スポーツ施設	大山社会体育館	2,035.99	47	34,132 人 (利用人数)
17	スポーツ施設	大山 B & G 海洋センター (体育館)	1,102.28	36	2,241 人 (利用人数)
18	スポーツ施設	(旧) 牧体育館	491.30	40	-
19	スポーツ施設	大山 B & G 海洋センター (プール)	958.36	36	-
20	スポーツ施設	大山総合体育センター (スポール)	1,777.32	22	20,981 人 (利用人数)

No.	施設分類	施設名	延床面積 (㎡)	築年数 (年)	利用状況 (平成 28 年度)
21	レクリエーション・観光施設	農山村交流センター	1,727.26	20	55,244 人 (利用人数)
22	レクリエーション・観光施設	白樺ハイツ	3,729.31	42	52,353 人 (利用人数)
23	産業系施設	大山研修所 (温室、管理棟、ポンプ室、作業棟)	830.16	31	-
24	学校	上滝小学校	6,539.00	38	108 人 (生徒数)
25	学校	大庄小学校	6,578.42	33	307 人 (生徒数)
26	学校	福沢小学校	3,217.67	34	30 人 (生徒数)
27	学校	小見小学校	3,197.24	36	23 人 (生徒数)
28	学校	上滝中学校	6,392.00	44	307 人 (生徒数)
29	幼保・こども園	大山中央保育所	497.79	29	35 人 (児童数)
30	幼保・こども園	福沢保育所	265.28	28	7 人 (児童数)
31	幼保・こども園	(旧) 上滝幼稚園	740.13	43	-
32	幼保・こども園	大庄幼稚園	498.58	35	24 人 (園児数)
33	幼保・こども園	小見幼稚園	509.33	31	4 人 (園児数)
34	高齢者福祉施設	大山老人福祉センター	1,038.39	41	22,047 人 (利用人数)
35	保健施設	(旧) 大山保健福祉センター	569.81	41	-
36	庁舎等	大山行政サービスセンター	2,063.77	61	-
37	消防施設	大山消防署	1,487.26	34	-
38	消防施設	大山消防署小見分遣所	245.11	12	-
39	公営住宅	新曙町団地 (市営・準公営・特公賃住宅)	4,137.06	22	-
40	公営住宅	殿様林団地 (市営住宅)	2,421.40	59	-
41	公営住宅	福沢団地 (市営住宅)	849.78	30	-
42	公営住宅	中滝団地 (市営住宅)	3,845.63	37	-
43	その他	大山車両センター	657.00	41	-

※ 築年数は、平成 30 年度時点。

2) 地域住民によるワークショップで出された課題

基本構想の策定に当たり、地域における公共施設の課題の把握とその解決を図るため、地域の代表者や施設利用者等によるワークショップを開催しました。ワークショップでは、大山地域における公共施設の課題やあり方、求める機能等について、施設分類やまちづくりの視点から活発な意見交換が行われました。

① 施設分類別の課題

ワークショップで出された施設分類別の課題としては、

- 各地区におけるコミュニティの場となる集会施設については利用率が低い施設が多い一方で、類似の機能を持つ施設があるなど、効率化が図られていないこと
- 図書館については、子育て世代が利用しやすい施設になっていないこと
- 庁舎については人員に対して施設規模が過大になっており、多くの空きスペースが発生していること
- 既に廃止された公共施設が有効活用されていないなど、資産を生かしきれていないことなどが挙げられます。

図表 2 施設分類別の課題

施設分類	課題
集会施設	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 100人規模で集まれる部屋がないなど、施設の機能や規模が実情やニーズに合っていない。 ● 使い勝手の悪い部屋は稼働率が低い。 ● 公民館には調理室がなく、地域内で利用できる場所も限られている。 <p>【統廃合した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 統廃合した場合、距離が遠くなり、集会の集まりが悪くなることが予想される。 ● 統廃合した場合、災害時にアクセスしやすい避難所がなくなることは課題だ。 ● 統廃合により他地区の公民館を使うことには抵抗がある。
文化施設	<p>【廃止した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文化会館が廃止されると、住民の文化・芸術活動のための場が不足する。 ● 文化会館が廃止されると、成人式等の大人数が集まることのできるスペースがなくなる。 ● 近隣の代替施設を利用する場合、自動車を使えない高齢者等にとっては遠く、利用しづらい。

施設分類	課題
図書館	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子育て世代や多世代が利用できる施設が不足している。 <p>【統廃合した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市の中心部の図書館は遠いので、現在の規模や機能を維持してほしい。
博物館等	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の中心から離れており、行く目的になるような施設となっていない。また、博物館の周辺に目的となる施設もない。 ● 利用者が少なく、今後も増加は見込めない。
スポーツ施設	<p>【統廃合した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学校の部活で利用されている施設は、廃止すると学校の活動に支障が出る。
レクリエーション・観光施設	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スキー場は大山地域の魅力であるが、その魅力を生かしきれていない。観光の目玉として機能していない。
学校	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒数がピーク時より大幅に減少している。 ● 居住地に関わらず、小学校を選択できるなど、多様な教育を選択できる仕組みがない。 ● エアコンが設置されていないなど、教育環境を確保するための改修が十分に実施されているとは言えない。 <p>【統廃合した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 統廃合した場合、地域コミュニティの場が不足する。 ● 統廃合した場合、地区外の学校に通うことになっても子どもたちと地区との関係が継続できるようにしたい。 ● 統廃合した場合、学校が遠くなるため、通学時の安全性や利便性を確保する必要がある。 ● 統廃合した場合、災害時にアクセスしやすい避難所がなくなることは課題だ。

施設分類	課題
幼保・こども園	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 園児数が減少していることから、園児同士の交流の機会が減り、活動に支障が出ている。 ● 保育園や幼稚園は制約が多く、利用ニーズに合わないため、利用されていない場合もある。 ● 子どもを安心して育てられる環境が整っていない。大山地域には児童館がなく、現在の子育て支援センターは手狭である。 <p>【統廃合した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 統廃合により遠くなったり、民営化して利用料金が高くなると、利用者の負担が増える。
高齢者福祉施設	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 洪水時の緊急避難所になっているが、平屋建てで高台に立地しているわけではないため不安がある。

② まちづくりの視点からの課題

まちづくりに関する意見を視点別に整理するとともに、公共施設等の課題をそれぞれの視点に対応するよう整理したところ、主な課題として、統廃合をした場合のコミュニティの場を確保することや自動車を使えない住民にも配慮する必要があることなどが挙げられました。

図表 3 課題の視点と意見

課題の視点	課題に関する意見
地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 統廃合をするとコミュニティの場が不足する。 ● 多世代が交流できるスペースが不足している。
アクセス性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域内で交通利便性に差がある。 ● 自動車が使えない高齢者等にとっては利用しづらい。
地域に必要な機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● スーパーのような商業施設がなく、買い物が不便。

3. 計画の基本コンセプト

(1) 整備の方向性

1) 地域課題の解決のための「まちの活力向上拠点」を整備

平成30年度に開催したワークショップでは、人口減少、少子・超高齢社会の進展等により、地域の活力の低下が懸念されていることや、まちづくりの核と位置付ける地域生活拠点における都市機能の向上を図り、拠点性を一層高めることが重要であるとの意見声が多くありました。

このことから、大山地域においては、まちづくりの核と位置付ける地域生活拠点において公共施設を集約し、コミュニティ機能等の強化を図ることにより、地域の活性化や利便性の向上、地域におけるまちづくりの推進を図ることとします。

2) 公共施設再編のための新規施設整備と複合化

大山地域の公共施設には、老朽化が進み、安全性に不安のある施設のほか、稼働率が非常に低く、利用者のニーズに合っていない施設もあることから、更新の際には、安全性と必要な機能を確保することに加え、人口減少を見据え、公共施設の総量縮減による財政負担の軽減を図る必要があります。

このことから、既存の公共施設を複合化し、新規に複合施設として整備することにより、必要な機能と安全性を確保しつつ、施設総量の縮減を図り、整備費・維持管理運営費等の軽減を図ります。

なお、必要な機能の確保に当たっては、新規の複合施設だけでなく、既存の公共施設のうち、安全性が確保できる施設の全部又は一部を活用することにより、将来市民の財政負担の軽減にも十分に配慮することとします。

3) PPP手法の導入

財政負担を軽減するだけでなく、民間事業者が持つ様々なノウハウを生かし、公共施設の利用者満足度の更なる向上を図るため、PPP (Public Private Partnership) 手法の導入について検討します。

(2) コンセプト及び対象エリア

1) コンセプト

ワークショップにおける意見を踏まえ、まちづくりの核となる地域生活拠点における都市機能の更なる向上や、地域の活性化、地域におけるまちづくりの推進を図るため、「まちの活力の向上」をコンセプトとします。

<コンセプトのイメージ>

- ・ 機能を複合化し、様々な用途で使用可能なスペースを用意することで、大山地域の方々の交流を促進し、コミュニティの維持や活性化に寄与する施設とします。
- ・ 高齢者や子育て世代、学生などの若者にとっても利用しやすい魅力的な施設とし、幅広い世代の方々が集い、交流することができる施設とします。
- ・ 行政機能や交流機能等を複合化し、利便性の高い施設とします。

2) 対象エリア

大山地域の課題である地域生活拠点における都市機能の向上を図るため、地域生活拠点であり、かつ老朽化した公共施設が集積するとともに、「地すべり」などの土砂災害の被害を受けるおそれが高いエリアである大山行政サービスセンター周辺にて複合施設を整備します。

図表 4 対象敷地



敷地面積	建蔽率	容積率	用途地域
約 4,500 m ²	60%	200%	第一種住居地域

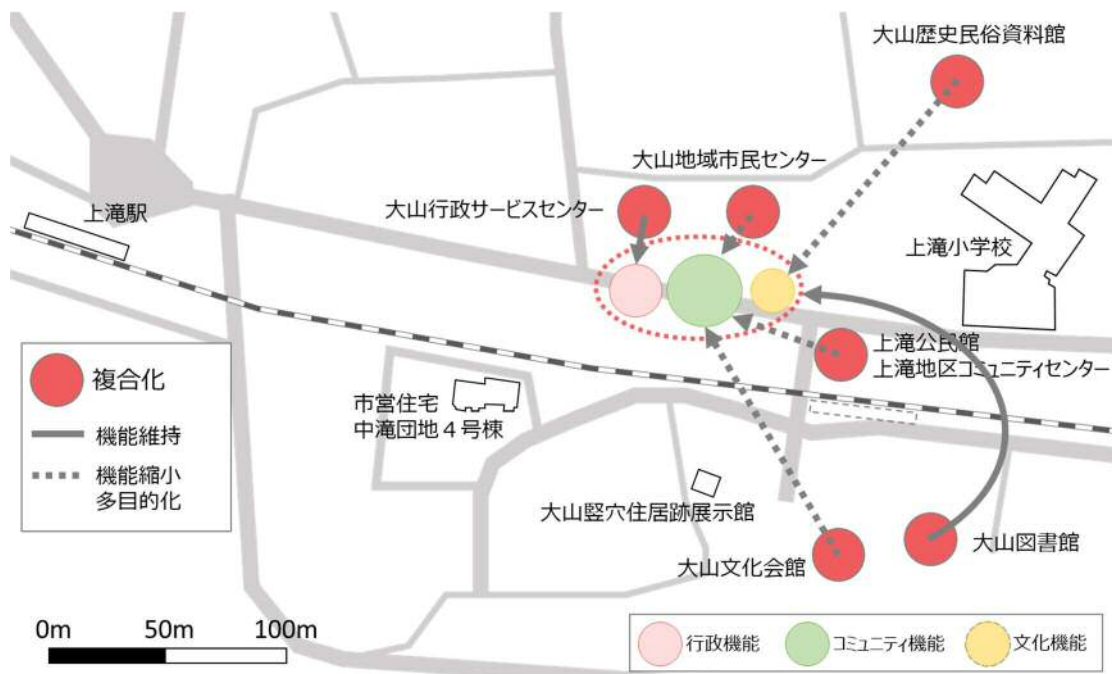
※敷地面積については、未測量のため、現時点では概算です。

(3) 導入機能

ワークショップにおける意見等を踏まえ、大山行政サービスセンター、大山地域市民センター、上滝公民館・上滝地区コミュニティセンター、大山図書館、大山文化会館、大山歴史民俗資料館の必要な機能を確保した複合施設を整備します。

複合施設の規模については、窓口や福祉等の行政サービスの維持・確保、床面積の縮減による整備費・維持管理費の負担軽減等の観点を基本としつつ、単なる既存機能の更新ではなく、複合化による効果の最大化により多くの住民にとってより良いサービスを提供できるよう、機能の向上やこれまでにない使い方ができるような施設とすることを目指します。

図表 5 概念図



1) 複合施設の機能

① 行政機能

窓口サービスや業務内容など、現在の機能は維持しますが、施設規模は縮小します。ただし、他の機能との複合化により、より利便性が高まるような工夫を行います。

図表 6 主な業務内容

名称	主な業務内容
大山行政サービスセンター 総務課	住民の地域活動の支援に関する事務、関係部局との連絡調整により実施する窓口サービス
大山行政サービスセンター 地域福祉課	生活保護相談、民生委員との連絡調整、児童福祉、母子・父子寡婦福祉、こども・妊産婦・ひとり親家庭等医療費助成、保育所入所等の申請受付・審査・決定、後期高齢者医療、障害者・高齢者福祉の申請受付・審査・決定、要介護認定等申請受付、地域包括支援センター、国民年金・国民健康保険の届出・申請受理等
大山行政サービスセンター 市民生活課	住民票、戸籍、印鑑登録・証明、マイナンバーカード交付等、税証明、住民自治の推進、市民相談、消費生活、ボランティア、地区センターとの連絡調整、交通安全、防犯、女性・青年団体活動支援、スポーツ団体育成、おでかけ定期券等
大山保健福祉センター	大山地域内における各種健康診査及び健康相談、訪問指導、栄養相談及び指導、福祉に関する相談
大山教育行政センター	大山地域内における教育行政全般（学校教育に関する連絡調整・協議、社会教育（生涯学習）に関する事項）

② コミュニティ機能

大山地域市民センター、上滝公民館（上滝地区コミュニティセンター）の機能を一体化した「地域交流センター」を設け、学校や地域の催しのほか、各種サークル活動や軽運動など、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方々が様々な用途で利用できるスペースを確保します。

また、大山文化会館（平成 31 年 3 月廃止）のホール機能は、様々な用途で利用できる多目的ホールとして必要な機能を確保します。

③ 文化機能

大山図書館は、現在の機能を維持しますが、延床面積は縮減します。ただし、他の機能との連携等により、サービスの更なる向上を図ります。

また、大山地域の文化や歴史のほか、地域の特色等を後世に伝承するためのコーナーを設置します。

4. 整備計画

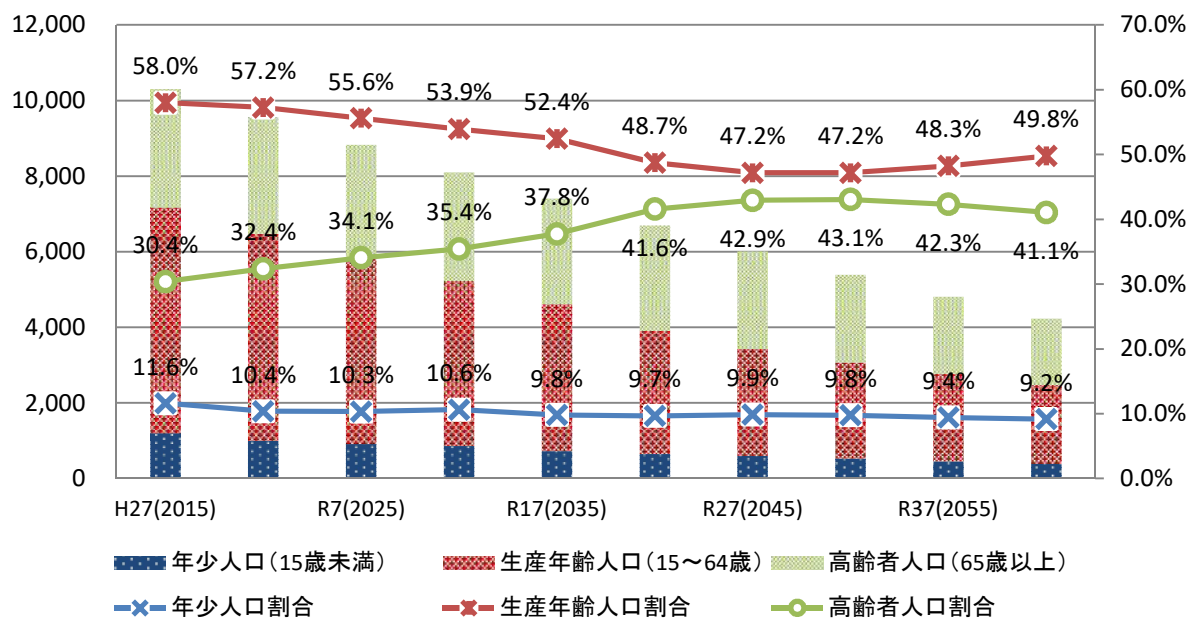
(1) 計画条件

1) 人口推移

大山地域の人口は、平成 27 年時点で約 1 万人ですが、令和 42 年までに約 6 割減少し、約 4,000 人程度になると見込まれます。

また、人口区別にみると、年少人口、生産年齢人口、高齢者人口のすべての区分で大きく減少し、高齢化率も上昇すると推計しています。

図表 7 将来推計人口



2) 職員数

複合化の対象とする施設の現在の職員数は下表のとおりです（令和元年5月1日現在、定数外職員含む）。今後の人口の推移等に伴う人事異動や組織体制の変更等により職員数は一定程度増減することも考えられます。

<大山行政サービスセンター>

名称	人数
大山行政サービスセンター総務課	16人
大山行政サービスセンター地域福祉課	8人
大山行政サービスセンター市民生活課	7人
大山保健福祉センター	6人
大山教育行政センター	3人
計	40人

<上滝公民館（上滝地区コミュニティセンター）>

名称	人数
上滝公民館	1人

<大山図書館>

名称	人数
大山図書館	4人

<大山歴史民俗資料館>

名称	人数
大山歴史民俗資料館	3人

3) 施設規模

現状の施設の延床面積は下表のとおりです。複合施設の延床面積は、国土交通省の新営一般庁舎面積算定基準（国の機関の一般庁舎の面積算定に関する基準）のほか、現行の人員体制やサービス内容、市内の類似施設の状況等を踏まえ、約2,100㎡とします。

また、既存施設の大山情報公開センターは、行政機能の一部としてそのまま活用します。

図表 8 複合施設の面積

施設名	現在の延床面積	整備後の延床面積	
		複合施設	既存施設
大山行政サービスセンター	2,064㎡	行政機能	行政機能
上滝公民館 上滝地区コミュニティセンター	563㎡		
大山地域市民センター	1,594㎡	コミュニティ機能	
大山文化会館	2,658㎡		
大山歴史民俗資料館	807㎡	文化機能	
大山図書館	855㎡		
合計	約9,000㎡	約2,100㎡	約500㎡

(2) 諸室整備計画

複合施設における必要諸室と整備に当たっての留意事項、想定面積は次のとおりです。なお、各必要諸室の想定面積は、今後の検討により増減することがあります。

図表 9 複合施設における必要諸室と留意事項、想定面積

	必要諸室名	留意事項	想定面積 (㎡)
行政機能 (行政サービスセンター)	執務室	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が利用しやすいよう低層階に配置します。 ・日常的な打合せや作業スペース、事務機器スペース、収納等を適宜確保します。 ・IT化の進展や組織体制の変更、職員数の増減等に伴うレイアウト変更にも柔軟に対応できるよう配慮します。 	250 ㎡
	会議室等	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や打合せのほか、各種選挙における投票所としても使用できる会議室を確保します。 ・利用のしやすさとプライバシーの確保に配慮した相談室を設けます。 ・母子保健事業等で使用する診察室や多目的室を確保し、より快適かつ安全に利用できるよう床材等を工夫します。 	140 ㎡
	倉庫・書庫	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の備品や書類の保管に加え、将来的な総量を想定した面積を確保します。 ・職員が利用しやすい配置とします。 	90 ㎡
	サーバー室等	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の機能を維持、充実させるため、以下の諸室を設けます。 ・更衣室は、職員数や男女比の変化に柔軟に対応できるよう、移動式の間仕切り壁とします。 (サーバー室、宿直室、給湯室、更衣室) 	70 ㎡
	小 計		550 ㎡

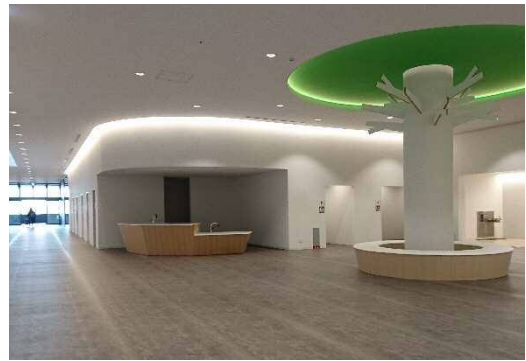
コミュニティ機能 (地域交流センター)	多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・最大 250 人程度が一堂に会することができ、演奏会やイベント、学校やサークルによる発表会などの地域の様々な催しのほか、子育て世代を支える活動など、幅広い用途で使用できる多目的なホールとします。 ・移動間仕切りを設置することで、利用人数や用途に柔軟に対応し、稼働率の向上を図ります。 ・様々な用途での使用を想定し、倉庫のスペースを設け、机や椅子は収納可能なものとします。 ・適切な防音、音響、耐久性能を確保します。 	300 m ²
	会議室等	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室は、多様な利用ニーズに応えるため、集会や会議だけでなく、少人数での軽運動や工作等のサークル活動での使用を想定します。 ・移動間仕切りを設置することで、利用人数や用途に柔軟に対応し、稼働率の向上を図ります。 ・子育てサークルや各種教室などでの利用を想定し、和室や調理実習室を確保します。 ・調理実習室は料理教室や地域イベントでの賄いスペースとして、使い勝手の良いものとなるよう、レイアウトを工夫し、適切なスペースを確保します。 	180 m ²
	収納庫	<ul style="list-style-type: none"> ・備品等の保管のため、適正規模のスペースを確保します。 	10 m ²
	事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・上滝公民館（上滝地区コミュニティセンター）と大山地域市民センターの各事務所機能を併せた事務室を確保します。 ・事務室は、職員数にあった適正規模のスペースとします。 	30 m ²
	展示コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・大山地域の文化や歴史のほか、地域の特色等を後世に伝承するためのコーナーを設置します。 ・ホワイエとの連続性を意識した、開かれた空間とします。 	40 m ²
	小 計		

文化機能 (図書館)	開架室	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからお年寄りまでの幅広い世代の方々が気軽に集まれる空間とします。 ・レイアウトの工夫等により、開放的な空間を演出します。 ・保健センターとの連携等を推進するため、読み聞かせ等を行うスペースの設置を検討します。 ・開架資料は 40,000 冊（うち児童書 10,000 冊）程度とします。 ・地域を知り、誇りを持った人材を育成するため、歴史的・文化的な地域資源に関する資料を配置します。 ・図書館のエントランス付近に 24 時間返却可能なブックポストを設置します。 ・入退場ゲートなど、盗難防止のための措置を講じます。 	300 m ²
	書庫	<ul style="list-style-type: none"> ・閉架書庫は、可動式書棚により 35,000 冊程度の収納を可能なものとします。 ・搬入搬出及び管理が行いやすい場所に、適切な規模を確保します。 	100 m ²
	事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・作業効率が良く、職員数にあった適正規模のスペースを確保します。 	50 m ²
	小 計		450 m ²
共用部	エントランス・ホワイエ・待合ロビー・トイレ・授乳室・廊下・階段・エレベーター・機械室等	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく開放的なエントランスとします。 ・多様な利用者を想定したユニバーサルデザインによる施設とします。 ・施設利用者の安全性を考慮し、十分な滞留空間を確保するとともに、待合スペースには寛ぐことができるよう椅子等を適宜設置します。 ・男女別トイレや多目的トイレは、利用しやすい配置とし、利用者がよりリラックスできる空間とするため、施設や設備の充実を図ります。 ・おむつ交換台などの必要な設備を備えた授乳室を確保します。 	540 m ²
合 計		2,100 m ²	

図表 10 複合施設の利用イメージ



間仕切りのできる大空間を確保することで、様々な用途に利用できる。



オープンスペースにキッチンスペースを設けることで、イベント等でも利用できる。



図書館の活用イメージ（左：岩手県立図書館、右：沖縄県立図書館）

(3) 配置計画

複合施設については、現在の行政サービスセンターや図書館、公民館の機能を仮移転させることなく整備が可能であることや、行政機能の一部（倉庫等）として引き続き活用する大山情報公開センターとの一体的な運用が可能であることなどを踏まえ、大山地域市民センター解体後の敷地に配置することとします。

なお、施設配置に当たっては、以下の考え方を基本とします。

1) 敷地の有効利用

駐車場や動線、緑地等を適切に配置することで、貴重な敷地の有効活用を目指します。

2) 良好なアクセスの確保

できるだけ建物内にアクセスしやすい動線を確保します。

3) 安全性の確保

敷地内は歩行者・自転車・自動車の動線が交差しない「歩車分離」とし、安全な動線とします。

図表 11 配置イメージ



(4) 平面計画

以下の基本的な考え方にに基づき、複合施設の平面計画を検討します。

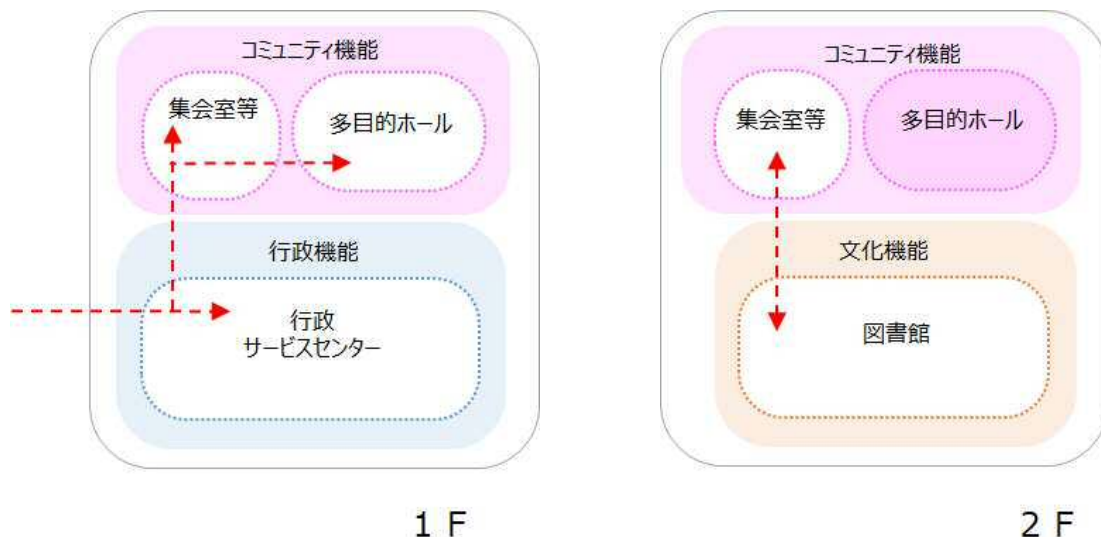
1) わかりやすく管理しやすいゾーニング

利用者にとってわかりやすく、かつ利用しやすい諸室配置とします。また、施設機能ごとに利用時間や利用形態が異なるため、それぞれ空間を明確に区分し、動線も必要時以外は重ならないよう配慮します。

2) 執務空間の充実とゆとりの確保

執務のしやすい機能配置と、利用者の待合やカウンター配置など必要なスペースを確保します。

図表 12 機能配置イメージ



赤矢印は主要動線

(5) 構造計画

複合施設の構造種別は、経済性、工期の短さ、一定の耐震性能、柱のない大規模空間の確保の容易性等から、適切な構造種別を選択します。

(6) 設備計画

安全で快適な空気・衛生環境等を維持できるものとします。同時に省エネルギーや環境負荷低減に配慮した維持管理の容易な方式とし、ランニングコストの低減を図ります。

また、民間事業者からの提案をもとに、地域資源である小水力やバイオマスなどの再生可能エネルギーの導入についても、費用対効果の観点も含め検討します。

(7) 管理・運営計画

複合施設に導入される機能（部署等）は、それぞれ開庁日（開館日）や開庁時間（開館時間）が異なることに加え、個人情報の取扱い等があることから、これらに配慮した管理形態を検討します。また、複合施設の各機能は、これまで通り直営による運営を基本とします。

なお、複合施設の管理・運営については、以下の基本的な考え方をもとに検討します。

<複合施設の管理・運営の基本的な考え方>

- ・ 行政サービスセンター、地域交流センター、図書館の各機能だけでなく、それぞれの機能が複合していることを生かし、一体的な管理・運営を目指し、利用者の利便性の向上を図ります。
- ・ 誰もが利用しやすい施設の管理・運営を目指し、多世代の利用を促進します。
- ・ 様々な用途で使用可能なスペースを用意するだけでなく、利用方法など多様なニーズにも柔軟に対応します。

図表 13 管理・運営形態（想定）

（複合施設）

機能	維持管理	運営
行政サービスセンター	民間	直営
地域交流センター		
図書館		

5. 事業計画

(1) 事業スキーム

本事業では、財政負担の軽減や平準化を図るだけでなく、民間事業者のノウハウを生かし、利用者満足度の向上を図るため、PPP手法の導入を検討します。

1) 事業方式

① 想定される事業方式

• 従来方式

従来方式では、市の自己資金により施設を整備します。設計、建設、維持管理・運営の独立性が高いため、大きなコスト削減効果や財政負担の平準化は期待できません。

また、施設の設計、建設、維持管理・運営は市が自ら行うことから、他の方式に比べて発注手続き等は簡素化されますが、分離発注となるため、民間ノウハウ導入の余地は限定的です。

• PFI-BTO (Build Transfer Operate) 方式

PFI-BTO方式は、民間事業者が施設を建設し、施設完成後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理及び運営を行う方式です。

一括発注、長期分割払いとなるため、コスト削減効果や財政負担の平準化が期待できる一方、PFI法に基づく手続きが必要となるため手間がかかります。

本事業においては、市の直営による運営を基本としていますが、民間事業者により設計、建設、維持管理を一体的に実施できることから、より柔軟なレイアウトや維持管理ができる新しい形の施設となる可能性があります。

• PFI-BOT (Build Operate Transfer) 方式

PFI-BOT方式は、民間事業者が施設を建設・維持管理し、事業終了後に公共に所有権を移転する方式です。

PFI-BTO方式と同様に、一括発注、長期分割払いとなるため、コスト削減効果や財政負担の平準化が期待できますが、租税負担が発生することなどから、その効果が十分に発揮されない可能性があります。

② 市場調査（サウンディング調査）

本事業において想定される事業方式について、民間事業者に対する市場調査を行ったところ、PFI-BTO方式に対する否定的な意見はありませんでした。ただし、PFIの実績やノウハウを持たない、地元の民間事業者も参画しやすいよう留意が必要であるという意見がありました。

また、事業期間については、概ね15年程度が望ましいとの意見が得られました。

なお、余剰地等を活用した民間収益施設の整備（余剰地活用事業）については、立地や市場性などの観点から、極めて困難であるとの意見が大勢を占めました。

①及び②を踏まえ、導入可能な民間活力の導入手法について比較検討した結果、本事業に最適な事業手法は、PFI-BTO方式と考えられます。

図表 14 評価

検討の視点	従来方式	PFI (BOT) 方式	PFI (BOT) 方式
コスト面			
総事業費	設計、建設、維持管理・運営の独立性が高く、大きなコスト削減効果は期待できない。	一括発注となるため、コスト削減効果が期待される。	一括発注となるため、コスト削減効果が期待される。
市の財政負担	初期投資において市の資金調達が必要となる。	長期分割払いとなり財政平準化が期待される。	長期分割払いとなり財政平準化が期待される。
固定資産税等の課税	施設は市所有のため固定資産税・都市計画税は発生しない。	施設は市所有のため固定資産税・都市計画税は発生しない。	施設は民間所有のため固定資産税・都市計画税が発生する。
評価	○	◎	○
サービス面			
利用者利便性	運営は直営のため現状維持。	運営は直営のため現状維持。	運営は直営のため現状維持。
評価	○	○	○
民間意向			
民間の評価(手続き、リスク分担・収益性の確保)	通常の請負業務と同様。	手続きのための手間が多く、事業開始までに相当な時間を要する。 設計、建設、維持管理を通じて、一体的に民間ノウハウが導入でき、機能性や快適性の高い施設整備が可能である。	手続きのための手間が多く、事業開始までに相当な時間を要する。 設計、建設、維持管理を通じて、一体的に民間ノウハウが導入でき、機能性や快適性の高い施設整備が可能である。
評価	○	○	○
総合評価	○	◎	○

◎：優れている、○：現状維持又は一長一短がある、△：劣っている

2) 事業期間

期間については、概ね 15 年程度と想定しています。

3) 業務範囲

本事業における業務範囲について、想定する官民の役割分担を示します。

図表 15 民間事業者との業務役割分担（想定）

業務項目		業務分担	
		民間	市
設計業務	既存施設の解体設計	○	
	基本設計	○	
	実施設計	○	
解体業務	既存施設の解体工事	○	
建設業務	敷地造成	○	
	建設工事	○	
	外構工事	○	
	什器備品等設置	○	
	引越し	○	△
工事監理業務	工事監理	○	
維持管理業務	建築物保守管理	○	
	建築設備保守管理	○	
	清掃・警備	○	
	植栽維持管理	○	
運営業務	行政サービスセンター運営		○
	地域交流センター運営		○
	図書館運営		○

○：主担当、△：支援

4) 事業形態

本事業はサービス購入型とします。

5) その他

事業者の公募に当たっては、現在、同じくリーディングプロジェクトとして事業スキーム等の検討を進めている「大沢野地域公共施設複合化事業」との一体的な募集についても、そのメリットやデメリット等を踏まえながら、引き続きそのあり方を検討します。

(2) 事業スケジュール

本事業におけるスケジュールは、次のとおり想定しています。なお、採用する事業方式等によりスケジュールは変更する場合があります。

図表 16 本事業におけるスケジュール (PFI 方式の場合)

令和2年度	令和3年度	令和4年度以降
事業者選定・契約	基本・実施設計、解体設計・工事、建築工事	
		移転
		供用開始
		解体設計・工事

(3) 概算事業費

本事業における施設整備等の概算事業費は約 15 億円 (税込) と想定しています。主な費用項目は以下のとおりです。なお、事業費はあくまで現時点の概算であり、今後の検討により増減する場合があります。

<主な費用項目>

設計・工事監理費、工事費、解体撤去費、引越費
(設備・備品費は含んでいません。)

6. 今後の検討に向けて

これまで、大山地域におけるリーディングプロジェクトの基本的な方針や施設整備に向けた基本的な考え方などについて整理しました。

今後は、これらの方針や考え方に基づき、地域の新たなシンボルとして、また、地域活性化に向けた拠点施設として、より多くの皆様に長きにわたり親しまれる施設となるよう引き続き検討を進めます。

なお、検討に当たっては、社会経済情勢の変化に柔軟に対応するとともに、将来世代に大きな負担を残さないよう、財政の健全化にも配慮しつつ、PPP手法の導入等により、民間事業者の新たな発想や工夫を最大限に取り入れながら、サービスレベルの向上が図られるよう努めていきます。

また、余剰地等の活用については、市場調査の結果を踏まえ、本事業による実現には課題が多いと考えられますが、引き続き、関係事業者等に対し、スーパーマーケットやドラッグストア等の新規出店を支援する「富山市都市機能立地促進事業」の周知・啓発に努めるなど、地域課題の解決に向けた取り組みを推進します。

7. 参考（ワークショップ等の概要）



本計画の前提となる「大山地域公共施設複合化事業〔リーディングプロジェクト〕基本構想」の策定に当たっては、より地域の実情を反映したものとなるよう、以下のコミュニケーション手段を活用し、地域住民や施設利用者の方々から幅広い意見をいただきました。

図表 17 コミュニケーション手段の概要



コミュニケーション手段	概要
ワークショップ	大山地域にお住まいの方にご参加いただき、グループに分かれて、まちづくりと公共施設の課題やその解決策、具体的なプランなどについて、自由に議論をいただきました。 回数を重ね、議論を深めていただくため、同じ参加者に継続してご参加いただき、議論の取りまとめを行いました。
オープンハウス (パネル展示型説明会)	地域住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップで挙げられた意見やそれらを反映したリーディングプロジェクトのプランなどの内容を広報しました。
ニューズレター	ワークショップで挙げられた意見やそれらを反映したリーディングプロジェクトのプランなどをお知らせするチラシ（ニューズレター）を地域内の各世帯に配布するとともに、ワークショップで検討されている内容についての意見を募集しました。

① ワークショップ


<第1回>

開催日時	平成 30 年 7 月 22 日（日）
参加者数	29 名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進め方の確認 ・ 検討に当たっての前提条件の理解 ・ 地域別実行計画、リーディングプロジェクトの内容理解 ・ 公共施設を取り巻く課題の共有
主な意見等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計画検討やワークショップの進め方について <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域別実行計画の考え方や検討の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設を減らす必要があることは理解できるが、不便にならないようにサービスの維持やアクセスに配慮してほしい。 2) ワークショップの進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでのまちづくり計画を市と住民で話し合ってきたので、検討の経緯も踏まえてほしい。 ・ これからの地域を担う若者や子育て世代、人口が多い地域の方の意見も反映してほしい。 2. 地区のまちづくりや公共施設について <ol style="list-style-type: none"> 1) まちづくりの現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設や商業、地域の催しが成り立たなくなっていることに不安を感じる。また、地域の中心部と山間部では生活圏や利便性が異なる。アクセス性は重要だ。 2) 公共施設の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ どの施設も利用者が少ない。地域の行事ができる場所が必要だ。また、市民の交流の場となるスペースがあるとよい。 3. リーディングプロジェクトとなる複合施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1カ所で行政の手続き、買い物、集会、学習などの用事が済ませられると便利で住民が集いやすい。機能が複合化することで、世代間交流が図られるとよい。 ・ 活動の制限が少なく使い勝手が良い、集客力のあるイベントが開催されているなどソフトが重要だ。
	 



<第2回>

開催日時	平成 30 年 9 月 2 日（日）
参加者数	29 名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における公共施設を取り巻く課題の共有 ・ 課題解決の方向性、アイデア出し
主な意見等	<p>1. 用途別方針について</p> <p>(1) 市民文化系施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区内に活動の場がほしい。災害時にアクセスしやすい避難所がなくなることは、地区にとって大きな課題となる。 ・ 新しくホールを作る場合、多機能型にすると利便性が高まる。 <p>(2) 社会教育系施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館は子どもたちが多く利用しており地区にとって大切な施設だ。 ・ 歴史民俗資料館は、展示の工夫に加え人が集まる場所に移設するとよい。 <p>(3) スポーツ・レクリエーション系施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ施設に人が集まるようになれば地域の活性化につながるだろう。白樺ハイツは周辺施設との連携や温泉をアピールすることなどにより存続できないだろうか。 <p>(4) 学校教育施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模ならではの特色があるので、統廃合の対象にしないでほしい。 <p>(5) 子育て支援施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統廃合や民営化によって利用者の負担が増えないようにしてほしい。 <p>(6) 保健・福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のニーズが多様化しているので、既存施設が更新されないことは理解できる。 <p>(7) 行政系施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の行政サービスセンターのサービスを維持してほしい。 <p>2. リーディングプロジェクトについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅舎と行政施設、多目的ホール、図書館、物販施設、カフェが複合していると若者から年配者まで集う、利便性の高い施設になるだろう。
	 

<第3回>

開催日時	平成 30 年 10 月 21 日（日）
参加者数	25 名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における公共施設の今後の方向性（用途別方針） ・ リーディングプロジェクトによる再配置案の検討
主な意見等	<p>1. 公共施設の再編方針案について</p> <p>（1）拠点となる施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上滝と大庄地区以外の地域について、不便になったりコミュニティが維持できなくならないように最低限の機能を確保してほしい。 <p>（2）公共施設の再編方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設は既存の地域コミュニティを維持していくために重要な場なので各地区にとって必要だ。 ・ 歴史民俗資料館と竪穴住居跡展示館は人が多く集まる場所に移して、多くの人に知ってもらえるとよい。 ・ 大山地域には豊かな自然があるのだから、屋外の遊び場ができるとよい。 ・ 避難所は、災害が起こりそうな時や起こってすぐに危険な場所を通らずに行ける近場にあることが重要だ。 ・ 水力発電は大山地域の特徴の一つなので、エネルギーのまちをコンセプトにしてはどうか。 <p>2. リーディングプロジェクト案について</p> <p>（1）全案共通の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政サービスセンターの機能、ホール機能、図書館、商業機能を複合化できるとよい。 <p>（2）各案に対する意見</p> <p>A 案…まずは現行政サービスセンター側の敷地で検討してほしい。</p> <p>B 案…スポーツもできる多目的スペースがあればホール機能としても十分。</p> <p>C 案…駅が移転して複合化すると利便性が増してよいが、実現性に疑問。</p>
	

< 第 4 回 >

開催日時	平成 30 年 12 月 23 日 (日)
参加者数	24 名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・案の絞り込み ・修正用途別方針案の妥当性の確認 ・再編を進める上での配慮事項の確認
主な意見等	<p>1. 公共施設の再編方針案について</p> <p>(1) 拠点となる施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の人口分布を考えると大庄ではなく上滝でリーディングプロジェクトを実施することに納得がいかない。 <p>2. リーディングプロジェクト案について</p> <p>(1) リーディングプロジェクト案全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大山地域の魅力とは何かを考え、それを複合施設のコンセプトにも反映できると、外部にアピールできる特色ある施設になると思う。 <p>(2) 地域にとって好ましいと思う案</p> <p>A 案…図書館をそのまま利用しており、コストが低く早期実現が可能な案だと思う。ホールの確保、図書館へ雨に塗れずに移動できる通路の設置、安全に出入りできる動線に配慮してほしい。</p> <p>A' 案…図書館を複合化した方がコミュニティ拠点づくり重視型でふさわしい。</p> <p>B 案…天候に左右されずに規模の大きなイベントができるのがよい。大きすぎる建物を作っても使いこなせないのではないかと心配だ。</p> <p>C 案・C' 案</p> <p>…駅にいろいろな機能が集約され、地域の利便性が高まるのがよい。集客の目玉となる特色を考え、企画運営にも力を入れてほしい。多目的スペースも設ければ、よりにぎわいが生まれると思う。</p> <p>(3) 評価表</p> <p>収益を上げることで運営費をある程度カバーできれば、評価表のコストに記載されている金額よりも抑えられると思う。</p>
	 

② オープンハウス

日時	会場
平成 30 年 11 月 28 日 (水)	大庄公民館
平成 30 年 11 月 29 日 (木)	上滝公民館



③ ニュースレター ＜第1号＞

大山ニュースレター第1号
発行：富山市 平成30年8月20日

7月22日(日)に開催しました第1回ワークショップについてお知らせします！

大山地域まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ

本市では、人口減少と超高齢社会の本格的な到来に伴い、今後ますます財政状況が厳しくなることが予想されており、このまますべての公共施設を維持し続けることは明らかに困難な状況となっています。こうしたことから、限られた財源の中で、将来にわたって公共施設の適切な維持管理を行うため、施設の再編など「公共施設マネジメント」の取り組みを進めていますが、施設の再編については地域の皆様にも様々な思いや意見があることも承知しておりますので、地域の皆様のご意見を踏まえ、計画を策定していきます。

今年度は、大沢野地域・大山地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と富山市がともに考えるワークショップを開催し、このワークショップで出たご意見や地域の実情などを受け止め、今後の「地域別実行計画」「リーディングプロジェクト」（次ページ参照）の策定に反映させるとともに、地域の皆様に住み続けたいまちづくりを進めていきたいと考えております。

こちらの「ニュースレター」は、ワークショップで検討されている内容をお知らせするとともに、広く地域にお住まいの皆様のご意見を募集するため、お配りするものです。

富山市における公共施設の現状と課題

公共施設の老朽化

富山市の公共施設の築年別保有価額を見ると、全体の40%がすでに築後30年以上経過しています。このうち20%を超える築年別今年齢、大規模修繕や建替えが必要となり、多額の費用が必要になると想定されます。

今ある公共施設をこのままの規模で維持すると、今後40年間で約3,300億円、年平均82.5億円が不足すると見込まれます。

人口減少

富山市の人口は、平成27年(2015年)には、現在から10万人以上減少し、約302,000人になると推計されています。

なお、大山地域では、平成27年(2015年)には、現在の人口の半額以上減少し、4,230人になると推計されています。

人口減少、そして少子高齢化の進行により、市税などが減収し、公共施設にかけられる費用はますます減少することが見込まれます。

地域別実行計画・リーディングプロジェクトの策定

地域別実行計画とは、地域の方のご意見を地域の実情を踏まえ、公共施設の利用促進・関係の整備方針を定めるものです。ワークショップでは、地域の課題を踏まえ、特色を反映した再編案の方向性についてご議論いただきます。

リーディングプロジェクトとは、リーディングプロジェクトは地域の核となる地域生活拠点（郊外の中心部や子育ての拠点エリア）において、大規模な再編を検討するものです。再編の検討対象となる施設・事業については、具体的な実施スケジュールを明確にします。ワークショップでは、どのような施設を持ち、どのような施設とすべきかを議論いただきます。

イメージ図：リーディングプロジェクトによる再編

ワークショップの流れ (予定)

富山市	ステップ1 進め方 最終目標の策定 課題の抽出	ステップ2 地域の課題と 課題解決の方策	ステップ3 再配置案の提示 長所・短所 （比較評価）	ステップ4 再配置案の選定
地域別実行計画の策定	第1回ワークショップ 7月22日	第2回ワークショップ 10月21日	第3回ワークショップ 10月21日	第4回ワークショップ 12月21日
地域の課題と 再編案の抽出	● 進め方の確認 ● 検討対象施設について の前提条件の整理 ● 地域別実行計画、 リーディングプロ ジェクトの内容整理 ● 音声を録音している公 共施設を絞りやすく 課題	● 地域を絞りやすく公 共施設の課題 ● 課題解決の方向性、 アイデア出し	● 地域にある公共施設 の再配置案の提示 （用途別方針） ● リーディングプロ ジェクトによる再 配置案の検討（市 が作成した案が WSなどの意見を 踏まえて作成され ている）	● 案の選定 ● 再配置案の再考 ● 再編準備の上で の配座準備
ニュースレター	ニュースレター	ニュースレター	ニュースレター	ニュースレター
			オープンハウス	

市が「地域別実行計画」「リーディングプロジェクト」を策定

オープンハウス：住民の皆様が準備した施設などで行う（不参加も可）説明会です。ご意見もお待ちしております。

大山地域 第1回ワークショップが開催されました

7月22日(日)、大山地域市民センターにて、「大山地域 第1回まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ」が開催されました。大山地域にお住まいの29名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。今回のワークショップでは、4つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、大山地域の公共施設の現状と今後について課題を感じていることについての議論が行われました。最後には全体で議論した内容を共有し、第1回のワークショップを終えました。

第1回ワークショップで皆様からいただいたご意見

◆ 計画検討やワークショップの進め方について

地域別実行計画の考え方や検討の進め方

- 施設を減らすことを考えるだけでなく、安く、安く住みやすい住宅を整備することも必要だとおっしゃる。
- 次の世代に負の遺産を残さないように、少子高齢化に伴って施設の再編が必要だとおっしゃる。
- 施設再編は理解できるが、減らさずして不便にならないように、こまめに更新していくケースの検討や高齢者のアクセスを考えるとよい。
- 施設再編のことであれば、施設数を減らすだけでなく、そこで働く（雇用の削減を必要とする）必要があり、施設再編の必要は雇用の削減とつながるとおっしゃる。
- 富山市として大山地域との周辺地域よりも富山駅周辺に居住を推進したいと考え、そこに力を入れていくように感じる。

ワークショップの進め方

これまでの大山地域のまちづくり計画を市と話し合ってきた、大山行政サービスセンター周辺については既に要望が出ているので、そうした意向の再確認や再編内容も踏まえてワークショップの検討を進めたい。

これらの地域をどうするかや子育て世代や人口の多い大沢野地区からの移住者が少ない状況になる。ワークショップへの参加が難しい状況の再確認も必要。

このワークショップが地域のまちづくりを検討する場であれば、検討対象とする施設の種類を、民間施設や団地や水産関連の施設などについても話し合うべきではないかとおっしゃる。

再編案の進捗状況を把握したい。その際、特定の方向性に誘導されないように幅広い事例を挙げてほしい。

大沢野地域と大山地域で再編の進め方が異なる。大山は再編が進んでいく中で、大沢野でも再編が進んでいくようにしてほしい。

再編を受けたが、ワークショップで話し合った公共施設の範囲やどの程度減らすかはよくわからない。

◆ まちづくりの現状と課題

人口減少

- 地域内には若い人が増えている大庄のような所がある一方で、核家族化が進んで若い世代が中心部に移ってしまったり、単身世帯が中心部から外へ出ていっている。
- 核家族化が進んで、富山中心部や周辺に人が入ってきている。地域から人が出ていって、公共施設が成り立たなくなっていることによる不安を感じている。
- 空き地や空き家が増えてきているので、住宅を整備するなどまちづくりのために活用することも考えてほしい。

生活圏・アクセス

- 地域が広く、上流などの中心部と山間部では発展の進み具合が異なるので、居住エリアによって生活圏や利便性が異なる。
- 地域内にはスーパーやドラッグストアがないと買い物が不便だ。アクセスのことも考えた上で店舗が確保されたい。
- 高齢になると車移動できないので、安く使え、乗りやすい公共交通の充実を促してほしい。
- 将来的には自動運転が普及すると思うので、施設等の移動手段の確保として公共交通の充実以外の解決策も考えられるのではないかとおっしゃる。
- 駐車場の広さや車のアクセスの良さも影響するので、駐車場の整備も重要だとおっしゃる。
- 人口が減少し、商店の後継者がいないため地域経済が停滞している。企業誘致などを積極的に進めてまちを活性化させる必要があるとおっしゃる。
- 住居の確保から考えるだけでなく、県外から富山に転入する人も増える可能性があるとおっしゃる。

公共施設の現状と課題

集会所

- 上流公民館には100人規模で集まれる部屋がないので、必要に応じて地域市民センターを利用している状況だ。
- 女性会館イベントで出店協力する際などに調理スペースが必要だが、以前は調理室がなかった。農村環境改善センターなどの調理室がある施設が廃止される場合には、他に場所を確保することを検討してほしい。
- 公民館の移動車庫は廃止された方がよいのではないかとおっしゃる。公民館の古い建物の解体する必要があるのではないかとおっしゃる。

文化施設・図書館・博物館等

- 音楽専門のホールではなく多目的スペースも兼ねたいので、住民の文化、芸術活動のための場を確保してほしい。
- 中学校を改修して集まる場があるといい。新たな集会所ができていくのに、人が集まることのできる場所がなくなってしまうのではないかとおっしゃる。
- 子育て世代が利用している図書館機能は残してほしい。リーディングプロジェクトの施設に合わせれば、多世代が利用しやすいのではないかとおっしゃる。
- 大山歴史民俗資料館はこの場所のままでは集客数の増加が見込めない。上流の中心部に移転するか、呉羽にある市の民俗資料館と統合してほしいとおっしゃる。

第1回ワークショップで皆様からいただいたご意見

◆ 学校・幼児・児童施設

- 小学校の児童数が減っているため、再編を進め、小学校を再編する必要がある。学区外の児童も積極的に通学できるように再編を進めたいとおっしゃる。
- 小中学校は併設する必要があるとおっしゃる。学区外の児童も積極的に通学できるように再編を進めたいとおっしゃる。
- 小中学校は併設する必要があるとおっしゃる。学区外の児童も積極的に通学できるように再編を進めたいとおっしゃる。

◆ リーディングプロジェクトについて

再編案の検討

- 一方が行政の手続き、異動、集会、学習などの用途が併用できるように再編を進めたいとおっしゃる。
- 再編を進めるとして、子どもから高齢者までが利用でき、世代間交流が図れる施設にしたいとおっしゃる。
- 現在の行政サービスセンターである銀行や社会福祉協議会などの再編も検討してほしいとおっしゃる。
- 多目的スペースなどの交流施設、ホールやホール活動の場としての文化施設、子どもの遊び場や高齢者の学習や交流施設、スポーツ施設、スーパーやカフェなどの店舗、簡易な交流センターや観光施設の再編についても検討してほしいとおっしゃる。
- よって再編したような高齢者の見守り場になる場所があるとおっしゃる。
- 公共施設にコンビニ、スーパー、銀行などの民間テナントを入れることを検討すべきではない。買い物不便な地域なので、まちづくりの観点から考えてほしいとおっしゃる。
- どこにでもあるような機能を合わせるのではなく機能特化した特長ある施設にして、全国から注目されるようにしてほしいとおっしゃる。
- 再編案が新たな施設に代わっても魅力がないと行かないと思う。再編の検討が少ないと思うので、集客力のあるイベントが開催されているなどのソフトが重要だ。企画ができる人材も必要だとおっしゃる。

再編案のアクセス

- アクセスや防災面を考えると、再編案の立地は現在の行政サービスセンターの場所がよいのではないかとおっしゃる。
- 再編の立地については十分検討する必要があるとおっしゃる。新庁舎のアクセスを確保する観点も考慮してほしいとおっしゃる。
- 居住エリアによっては再編案が難しい。駐車場の確保や施設での公共交通の充実など、交通アクセスについても同時に整備してほしいとおっしゃる。

再編案の維持

- 再編案の維持は100人規模で集まれる部屋がないので、必要に応じて地域市民センターを利用している状況だ。
- 女性会館イベントで出店協力する際などに調理スペースが必要だが、以前は調理室がなかった。農村環境改善センターなどの調理室がある施設が廃止される場合には、他に場所を確保することを検討してほしい。
- 公民館の移動車庫は廃止された方がよいのではないかとおっしゃる。公民館の古い建物の解体する必要があるのではないかとおっしゃる。

ご意見募集

ワークショップに参加された方だけでなく、多くの大山地域の皆様の意見を今後の計画に反映させたいと考えています。ご意見を募集します。

- ワークショップで検討されている内容について
- 大山地域のまちづくりや公共施設について

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参など、どのお気軽な方法で、差し支えありません。ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先を記載をお願いします。

お問い合わせ先

富山市企画管理課行政推進課
公共施設マネジメント推進課
電話：076-443-2021
ファクス：076-443-2170
E-mail: gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報は
http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakuanniibu/
gyouseikanika/sougoukanikaiku/
sougoukanikaiku.html

<第2号>

**大山地域
まちづくりと公共施設の
「これから」を考えるワークショップ**

高山市では、今年度、大山地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と高山市がともに考えるワークショップを開催しています。9月2日(日)に第2回ワークショップを開催しましたので、その内容をお知らせします。
また、ワークショップで話し合われている内容等についてのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップで紹介し、検討を進めています。(裏面のご意見募集をご覧ください。)

**9月2日(日)に
開催しました第2回
ワークショップについて
お知らせします!**

大山ニューズレター第2号
発行：高山市 平成30年9月20日

検討の進め方

高山市は、このワークショップをはじめ、広く地域の皆様からいただいたご意見を反映させ、大山地域における公共施設の用途別将来の整備方針を定める「地域別実行計画」と、大山行政サービスセンターを核に、公共施設の再編を検討する「リーディングプロジェクト」を決定します。所定までは、下図のように段階的に検討を進めます。第2回ワークショップでは、「大山地域の課題」と「課題を解決していくためのアイデア」について話し合いました。

進め方
最終目標の設定
課題の抽出

9/2開催
第2回ワークショップ
大山地域の課題や課題解決のためのアイデアについて意見交換を行いました。

地域の課題と
課題解決の方向

再配案の提示
長所・短所

10/21開催予定
第3回ワークショップ
公共施設の用途別方針案やリーディングプロジェクトによる再配案案について検討します。

再配案案の
選定

12/23開催予定
第4回ワークショップ
用途別方針案や再配案案を評価し、絞り込みを行います。

地域別実行計画、
リーディングプロジェクトの策定

ご意見を8つの視点にまとめ、各視点を基に検討しました

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップで出されたご意見を、8つの視点に整理するとともに公共施設の用途別の課題やリーディングプロジェクトについてのご意見としてまとめ、他に追加すべき視点や用途別の課題はないか、それらの課題を解決するためにはどうすればよいか、リーディングプロジェクトではどのような施設を目指すべきか等について意見を申し合いました。
以下は、8つの視点と各視点のもとになった第1回ワークショップでのご意見からの抜粋です。

<p>① 地域の活性化を図る(拠点づくり、魅力づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域外からも人が集まる場をつくる ○ 多世代交流ができる施設をつくる <p>② アクセシビリティを確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の交通手段を確保する ○ 駐車場の整備も重要 <p>③ 子育て環境を充実させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童館と子育て支援センター両方の機能があること ○ 子どもの遊び場が少ない <p>④ 学校教育環境を適正化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童数が減少している ○ 統廃合時の通学の安全性や利便性を確保する 	<p>⑤ 安全性を確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 狭い道が多い ○ 避難場所である小学校がなくなるのは困る <p>⑥ 将来負担を軽減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コスト削減の必要性 ○ 空き地空き家の活用 <p>⑦ 必要機能を確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 買い物に不便 ○ 文化、芸術活動の場の確保 ○ 大人数を収容できるホールがあること <p>⑧ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の運用面 ○ 公民の連携
--	---

大山ニューズレター第2号

第2回ワークショップのご意見(抜粋)

市民文化系施設

- 集客機能が高くなって遠くまで来なくなるのでは、高齢化が進んで、集客の場所がなくなる心配がある。
- 市民文化系施設は、集客機能だけでなく、市民生活の場としての役割も果たす必要がある。
- 普段から隣の地区の集客施設を使うことがあるので、廃止されても大きな問題ではない。
- 新たにできる集客施設が住民の集まる場になるのであれば、集客機能の向上も期待できる。
- 公民館がない場合は、地区の防災拠点の機能を確保してほしい。各町内の集客施設は避難所として利用するには不安だ。
- ホールは他地域のものを代用するとしているが、どの施設を指定しているか、地域の文化祭を毎年行っているため、地域外の施設では見に来る人が減ってしまう。
- ホールは現在より小規模でも構わないが、多目的・多機能型にして、合唱や成人式で使用できるように。
- ある程度の規模のホールは地区の活性化には必要だ。

社会教育系施設

- 図書館は子どもたちの学習の場であり、重要な施設だ。市中心的な図書館まではいいが、地域の図書館は廃止せず残してほしい。
- 現在の図書館には子どもたちが勉強できるスペースが少ないので、今後整備するのあれば、学習スペースを作してほしい。
- 図書館のネットワークを充実させて、書籍の取り寄せや返却がしやすくなること。
- 大山歴史民俗資料館は利用者が少ないが、地域の歴史を学ぶための大切な施設だ。展示の工夫などをして利用しやすくなる必要がある。多くの人が集まる場の近くにあるといい。
- 歴史民俗資料館は現在のまま維持させるのではなく、他施設に展示コーナーを設けてもいいのではないかと。

スポーツ・レクリエーション系施設

- 学校に併設されているスポーツ施設がなくなると、授業や部活で使用できなくなるので問題だ。

- スポーツ施設の中には、地域の人はほとんど使っていない施設もある。
- スポーツ施設を積極的に活用すれば、民間施設なども来る可能性があるのではないかと。
- 白樺ハイパスは、しつこく遊ばされるのであれば民間に移管してもいいが、住居を利用する施設なので、入浴施設の確保はしてほしい。

学校教育施設

- 学校が統合によってなくなる、小学校の低学年児童に送迎の面で負担が大きい。
- 小規模校であっても特色のある小学校については統合の対象にしないほしい。

子育て支援施設

- 児童数が少ないとできない活動も出てくるので、ある程度の児童数の確保が必要だ。
- 児童館が整備されているので、保育園を充実させて働きやすい環境をつくること。

保健・福祉施設

- 高齢者のニーズが多様化しているため、老人福祉センターが更新されないといことは理解できる。入浴施設を利用している必要があるため、入浴施設の代替が必要だ。

行政系施設

- 現在の行政サービスセンターのサービスを維持してほしい。特に福祉の窓口はほしい。

リーディングプロジェクトのコンセプト

- 統合施設に行けば何でも利用でき、住居のための機能が充実した施設にする。
- 「学問のまち」の特色を表す施設にする。
- 駅との統合施設を確保し、公共交通の拠点をコンセプトにした施設にする。
- 再生可能エネルギーを積極的に活用したエネルギーのまちを築くことを目指す。

ご意見募集

ワークショップに参加した方だけでなく、多くの大山地域の皆様の意見を今後の計画に反映させたいと考えています。ご意見を募集します。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **大山地域のまちづくりや公共施設について**

下記の「お問い合わせ先」まで、メール・ファクス・郵便・持参により、ご意見を届けてください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

高山市企画管理行政課
公共施設マネジメント推進課
電話：076-443-2021
ファクス：076-443-2170
E-mail: gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

高山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。
<http://www.city.toyama.jp/kikakunibu/gyouseikanri/sougouannieika/sougouannieika.html>

皆様のご意見をお待ちしています!

35

<第3号>

大山ニュースレター第3号
発行：富山市 平成30年11月20日

**10月21日(日)に
開催しました第3回
ワークショップについて
お知らせします！**

**大山地域
まちづくりと公共施設の
「これから」を考えるワークショップ**

検討の進め方

富山市は、ワークショップをはじめ、広く地域の皆様からいただいた意見を反映させた、大山地域における公共施設の再編方針を定める「地域別実行計画」に、大山行政サービスセンターを核に、公共施設の再編を検討する「リーディングプロジェクト」を推進します。
第3回ワークショップでは、「公共施設の再編方針」について話し合いました。

進め方
最終目標の設定
課題の抽出

地域の課題と
課題解決の方策

再配置案の提示
長所・短所

再配置案の
選定

地域別実行計画、
リーディングプロジェクトの
策定

第3回ワークショップ 10/21開催
公共施設の再編方針案や
リーディングプロジェクトによる再配置案
について検討しました。

**第4回ワークショップ
12/23開催予定**
再編方針案や再配置案を評価し、絞り込みを行います。

オープンハウス（パネル展示説明会）のご案内

これまでのワークショップでの議論をふまえて、オープンハウスを開催します！

- オープンハウスとは、ワークショップでの議論などについてパネルで展示して、市の担当者が内容をご説明し、広く大山地域の皆様からご意見をいただくものです。

日時 11月28日(水) 10時～16時 **大庄公民館**
場所 11月29日(木) 10時～16時 **上海公民館**

オープンハウスを開催しますので、お気軽にお立ち寄り下さい！
メールなどでご意見もお待ちしております。

ご意見募集

- ワークショップで検討されている内容について
- 大山地域のまちづくりや公共施設について

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファックス・郵便などにより、どうぞお気軽にお寄せ下さい。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

富山市企画管理課行政推進課
公共施設マネジメント推進班
電 話：076-443-2021
ファクス：076-443-2170
E-mail：gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。
<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakuanniibu/gyouseinanniibu/sougouannikaku/>
sougouannikaku.html

リーディングプロジェクト（案）について

第3回ワークショップでは、第1・2回ワークショップで出された意見をもとに作成した3つの案について、追加すべきことや気になる点など、ご意見をいただきました。

企業共通の主なご意見

- 200～300人規模のホールをつくること、行政サービスセンターの規模は縮小してもサービス内容は維持すること、利用しやすい十分な台数を確保した駐車場の整備が必要。
- 店舗や金融機関など商業機能を入れてほしい。利用者が増えることが期待できるし、地域の生活の利便性も向上する。マルシェなどができれば、地域外からも人が来ると思う。
- 過去の検討では、コミュニティセンターは独立させるとした上で、複合化は利用者のニーズと異なる。
- 図書館は手狭で、バリアフリーにもなっていないので、複合して新しくできるとよい。面積が小さくなくても、図書館機能だけを入れるのなら、十分なスペースが確保できるのではないかと。
- 大山らしさを出すためにも、積極的に再生可能エネルギーの活用をすすべきたいと思う。
- 子育てしながら介護する人もいるので、子どもと高齢者関連の用事が、ワンストップでできる施設になるとよい。
- 大山文化会館側は、線路を跨るわけではないので危険は、県道に面している方が利便性が高いことも考えると、行政サービスセンター側に作る方がよいと思う。

A コミュニティ拠点づくり重視

- 行政機能とコミュニティ機能を複合化。
- 行政サービスセンターは、機能を維持するが規模は縮小、多目的スペースを含む集会所を構築。

主なご意見

- 行政サービスセンター側に建てられないか検討し、難しい場合は、地下道を整備するなど安全面に配慮してほしい。
- 行政サービスセンター側にする場合は、図書館だけが孤立しないように、図書館も移転してほしい。その際、コミュニティセンターと図書館を複合した施設と別の機能を複合した施設、2つの建物を作ってはどうか。

B 文化拠点づくり重視

- 行政機能、コミュニティ機能、文化機能を複合化。
- 行政サービスセンターと図書館は、機能を維持するが規模は縮小、集会所は最低限確保。

主なご意見

- 周辺に体育館が複数あるから、運動もできるアリーナは必要なのではないかと、多目的スペースがあれば、ホールとしては十分と思う。
- お茶や様々な成熟期時代祭りなどをアリーナで開催できれば、文化拠点の意味が強くなると思う。
- 図書館の面積が小さくならないように懸念があるので、複合せずにそのまま残すバウンズもあってよいと思う。

C まちの活力を向上させる

- 行政機能、コミュニティ機能、商業機能、駅を複合化。
- 行政サービスセンターは、機能を維持するが規模は縮小、集会所は最低限確保。

主なご意見

- 駅を移転し、パークアンドライドできる駐車場を整備できれば、いろいろな用事がワンストップでできて利便性が増し、駅も新しくなって使い勝手がよくなるだろう。
- 小さな子は電車に乗ることも慣れるので、市の中心から上海の子育て施設に来る人がいるかもしれない。車のない人が利用しやすいものもよい。
- 駅が移転されると、通勤、通学で利用している人で、不便になる人がいるのではないかと、鉄道会社との交渉も難しいだろうし、現実的とは思えない。人の流れが変わるので、駅周辺の商店から反対が出るのではないかと。

公共施設の再編方針（案）について

第3回ワークショップでは、第1・2回ワークショップで出された意見をもとに作成した公共施設の再編方針（案）について、追加すべきことや気になる点など、ご意見をいただきました。

(1) 拠点となる施設等（案）（抜粋）	主なご意見
<p>①地域の公共施設再編の基本的考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口が集中している上海地区・大庄地区に、集中的に配置し、利便性・機能性を高める。 各地域の特色を生かした視点をいれられること。 中心部や南部地域なども含めて公共施設の再編を考える方が、無駄な施設が残り、利便性も損なわないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 上海と大庄地区に施設を集約するのはやむを得ないが、他の地区が不便になったり、コミュニティが維持できなくなるように、最低限の機能を確保してほしい。最低限とは何か、住民の意見を聞いて判断してほしい。 複合施設に地元の木材を使ったり、リビングアートのまち大山をアピールできるとよい。
<p>②公共施設の再編方針（案）（抜粋）</p> <p>①地域コミュニティの維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 一定の人口に応じて、集会所など、人の集まることのできる空間を地区ごとに確保する。 学校の余裕教室や空き家の活用など、空間の形態は柔軟に考えていく。 <p>②地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 複合施設にイベントや商業活動のできる場を確保することにより、地域を盛り上げていくことを目指す。 <p>③文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化コンテツを伝承・発展する場として、地域の中心に複合施設を整備する。 歴史民俗資料館、臨穴住居跡展示館は、展示内容や活動は維持しつつ、複合化や移設を検討する。 <p>④少子化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て環境の充実を図る。子どもの数に応じて、施設を併設を進め、機能が集約された場でサービスを提供する。 複合施設に子育て支援機能の導入を検討する。 <p>⑤利便性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校を統合する場合には、スクールバス等の対策を検討し、現状で既に不便だ。 市街地へのアクセスの利便性を向上させて、子育て世代の流入を増やすという視点をあてようではないかと。 <p>⑥安全性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 集会所や学校、空き家、そのほかの公共施設のうち、安全なものを避難場所として指定する。 <p>⑦財源の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用ニーズがなくなった施設の複合化、建替えの際の面積縮小を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設を、既存の地域コミュニティを維持していくため重要な場と位置づけるのだから、上海や大庄地区以外の地区にとっても必要であることを理解してほしい。 少年サッカーが盛んなことを生かし、スポーツのまちを積極的にアピールできるとよい。 施設の再編とともに、体験やサロンなどを開催し、地域の伝統芸能を保存・継承していく仕組みも検討したい。 歴史民俗資料館と賢く住居跡展示館は、それだけ見られる人が少ないので、人が多く集まる場所に移した方が、多くの人に知られてもらえよと思う。 大山地域には豊かな自然環境があるのだから、屋外の遊び場との連携がとれるとよい。

<第4号>

大山地域 まちづくりと公共施設の 「これから」を考えるワークショップ

大山ニューズレター第4号
発行：富山市 平成31年4月20日

大山地域の
「地域別実行計画」と
「リーディングプロジェクト」の
内容についてお知らせします！

地域の皆様からいただいた、まちづくりと公共施設に対するご意見等をもとに、大山地域における公共施設の将来の再編方針を定める「地域別実行計画」と、行政サービスセンターを核に、公共施設の再編を検討する「リーディングプロジェクト」の基本構想を決定しました。

これまでの検討の経緯

- 富山市では、地域の皆様からの意見をいただくため、ワークショップ（全4回）やオープンハウスの開催、ニューズレターの全戸配布を行ってきました。



ワークショップ

地域の35名の方に参加いただき、ワークショップを計4回開催して活発に議論を行いました。

オープンハウス

大庄公民館と上滝公民館で、公共施設の再編方針とリーディングプロジェクト案をパネル展示し、ご意見をいただきました。

ニューズレター

地域にお住まいの皆様へ、情報提供を行い、ワークショップで検討されている内容や、地域のまちづくりと公共施設についてのご意見を呼びかけました。

お問い合わせ先

富山市企画管理課行政総務課
公共施設マネジメント推進係
電話：076-443-2021
ファクス：076-443-2170
E-mail: gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

「地域別実行計画」や「リーディングプロジェクト」に関する情報は富山市HPでご紹介しています。
HOME > まちづくり・市政 > 各種取り組み > 公共施設マネジメントに関する取り組み > 公共施設マネジメントについて

- ### 3) 文化の振興
- 文化の振興を図ります。豊かな自然、水源地域としての伝統に根ざしたお祭りなどを活かし、文化コンテンツを伝承し、発展させる場として、地域の中心の複合施設を整備します。
- 複合施設においては、旧大山文化会館の一部、大山図書館の機能を再編しつつ、行政サービスセンターやコミュニティ施設の機能とあわせ、多様な方が気軽に集まることのできる拠点作りを目指します。
- 歴史民俗資料館、歴史民俗展示館は、利用者が少なくなっているものの地域の文化を伝承する貴重な財産であることを踏まえ、より多くの人に利用していただくための工夫、より多くの人が集まる施設・場所への移転や他の施設との複合化を検討します。
- ### 4) 少子化対策
- 地域の子育て環境の充実を図ります。子供の数は将来的に減少していくことから、今後は施設の統合を進め、機能を集中させます。集約された場でサービスを提供するようにしていきます。これらの施設では、大山地域の豊かな自然環境を活かした教育環境となるように配慮します。
- 子育て中のご家族の方が、子育て以外の行政サービス提供もワンストップで受けられるように、また、多世代の方々で地域の子供の見守りができるように、複合施設に子育て支援機能を積極的に導入することも検討します。
- ### 5) 利便性の確保
- 公共施設の配置に際しては、アクセスのしやすさ、利用のしやすさなど、その利便性が損なわれないように配慮していきます。地域の方は車を使って施設を利用することが多いため、各施設には駐車場を確保します。同時に車が利用できない方のため、バスや鉄道などの公共交通機関によるアクセスについても確保します。
- 上滝・大庄地区以外でも、各地区の拠点となる施設にはバス等のアクセスが可能な配置とします。また、将来的に学校を統合する場合には、スクールバス等、子供たちの通学に支障がない方策を検討します。
- ### 6) 安全性の確保
- 地震や水害、かけ崩れなどの自然災害に備え、避難拠点を確保します。集会所や学校、その他の公共施設のうち、安全性が確保された施設を避難場所として指定します。
- ### 7) 財源の確保
- 市全体の公共施設にかかる財源の削減の必要性に鑑み、利用ニーズの少なくなった施設の複合化等による整理縮小、また建替えの際の面積の縮小についてはやむを得ないこととします。
- 今後は、専用のハコモノにこだわらず、既存施設の積極利用や、建替えよりも長寿命化を図るなど、維持管理費を低減していきます。また、複合施設にすることでより施設面積を効率化していくとともに、管理する職員が横断的に働けるようにするなど、組織の見直しを図ることについても検討します。
- また、再編にあたっては、民間活力の導入についても検討し、最適な整備手法を選定します。

メリハリを付けた
施設の管理

分散から
集中へ

複合化して建替

人口減少時代に地域のコミュニティを維持していくためには、資産を集中して配置し、機能性を高めることが必要です！

老朽化した施設を機能を複合化して建替え、新たな賑わいを生み出す拠点とするを目標とします！

©TOYAMA CITY/IDE

地域別実行計画（公共施設の再編方針）

- ワークショップ等では、大山地域の公共施設の課題、課題に対する解決策など、様々なご意見をいただきました。いただいたご意見を踏まえて、大山地域の公共施設の再編は、以下の方針で行ってまいります。

(1) 拠点となる施設等

- #### 1) 地域の公共施設再編の基本的考え方
- 大山地域においては、北西部の可住地である上滝地区、大庄地区に人口が集中しており、今後も地域全体の人口は大きく減少しつつ、当該地区に人口の集中が続く見込みです。
- 厳しい財政制約の中、持続的に地域コミュニティを維持し続けていくために、今後は、地域の資源を分散ではなく集中して配置し、そこでの利便性や機能性を高めていくことが求められていると考えます。富山市のまちづくりの方針である立地適正化計画においても、都市機能や居住機能を当該地区に誘導していくことが定められています。本地域での公共施設の配置についても、上滝地区・大庄地区に集中的に配置を行い、それ以外の地区は、避難場所等の適正配置による防災安全性の確保、地域の特色ある文化や地域コミュニティの維持などに必要な最低限の機能を残していくことにします。再編にあたっては、地区住民の意見を踏まえて検討を進めます。また、大山地域だけでなく、隣接する地域とも連携し、最適な施設配置を検討します。
- #### 2) 優先的に取り組むべき施策
- 上滝地区の行政サービスセンター敷地、文化会館跡地のエリアにおいて、老朽化した公共施設の建替えを契機として、公共施設の複合化による集約を行います。コミュニティ活動・文化活動の活性化により地域の魅力を高める拠点とし、地域の意見を踏まえた機能を集中配置することで、地域の方が便利に利用できる場を確保するとともに、多くの方が集まって新たな活動を創出し、地域の活力を高めていくことを目指していきます。また、拠点整備にあたっては、大山地域の地域資源を活かした再生可能エネルギーを積極的に活用し、環境にやさしい施設整備を検討します。

(2) 公共施設の再編方針

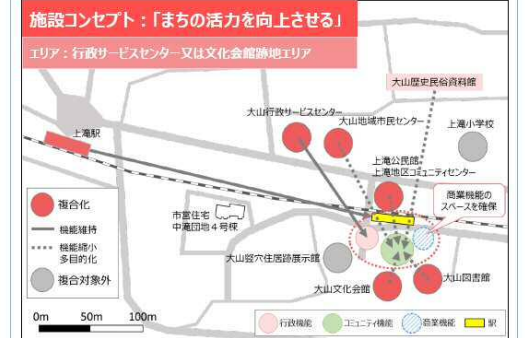
- #### 1) 地域コミュニティの維持
- 既存の地域コミュニティを維持していくために、公共施設をその重要な場として位置づけます。生涯学習の場、地域の会合の場など、避難や消防団などの防災活動の場として、一定の人口に依り、集会所など、人の集まることのできる空間を確保して確保します。
- これまでより、多世代の人々が、多様なニーズで集まることのできる場を、できるだけ利用制約をなくして確保していくこととし、必ずしも独立した集会所というハコモノにこだわらず、学校の余裕教室や、空き家の活用など、空間の形態は柔軟に考えていきます。
- 新たに地域の中心に、多世代交流拠点としての複合機能を設置します。地域の方が数百人規模で一室に集まることのできる空間の確保とともに、様々な社会教育やコミュニティ活動が行える場を確保します。
- #### 2) 地域の活性化
- 複合施設において、スポーツをはじめとする地域の特色を活かした地域内外の方々が集うイベントの実施、マルシェなどの商業活動を行うことのできる場をソフト・ハード双方の観点から整備することにより、地域を盛り上げていくことを目指します。

リーディングプロジェクトの基本構想

- 公共施設再編方針を踏まえ、行政サービスセンターを核として、公共施設の複合化による地域拠点形成のための基本構想を決定しました。

リーディングプロジェクトの整備方針

◆リーディングプロジェクト概念図



- #### ◆整備する施設の内容
- 大山行政サービスセンター、大山文化会館、大山地域市民センター、上滝地区コミュニティセンター、上滝公民館、大山図書館、大山歴史民俗資料館の機能を持つ複合施設を整備します。
 - 大山行政サービスセンターの施設規模は縮小しますが、現在のカーブス機能は維持します。
 - 集会所やホール機能は、多様な使い方が可能なように確保します。
 - 商業機能のためのスペースを確保し、地域に不足している物販施設の導入を検討します。
 - 駅については、実現可能性について今後検討します。
 - 再生可能エネルギーを積極的に活用し、環境にやさしい施設整備を検討します。
 - 地域の皆様に関まれ、誇りをもてる外観・デザインとなるよう設計とします。

- #### ◆想定スケジュール
- リーディングプロジェクトについては、この基本構想を踏まえ、複合施設をより良いものとするため、平成31年度（2019年度）に民間事業者からの提案を求めながら基本計画を決定し、平成33年度（2021年度）の工事着手を目指して事業を進めていくこととしております。